

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872500079		
法人名	社会福祉法人 博友会		
事業所名	フロイデグループホーム美和		
所在地	茨城県常陸大宮市鷺子686-1		
自己評価作成日	2022年4月1日	評価結果市町村受理日	2022年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0872500079-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2022年6月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれ、緑豊かで静かな所です。夜空には、満天の星が輝き、空気が澄んでいます。ゆったりと、散歩等を楽しむことが出来ます。また、母体企業が医療法人の為、定期的な往診と、連携体制を図る事が出来ており、ご家族様に安心して生活して頂いております。棟続きには、デイサービスが併設されており、日中は看護師が常駐しており直ぐに、相談等もできる状態になっております、合わせて、近隣のボランティアの方々の協力の下、避難訓練や防災訓練等が、定期的に行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かで自然豊かな場所に建ち、デイサービスが併設されている1ユニットのグループホームである。土砂災害の危険区域に指定されており、マニュアルを作成し、地域ボランティアの参加を得て避難訓練を行い、予測される災害に早めに対応する体制が確立されている。母体の医療法人には病院の他、サービス付き高齢者住宅、特養、老健、訪問サービスと多種の事業所があり、医療と施設間の連携が図られている。職員は理念に沿った支援を行っており、利用者が楽しく自立した生活を送っている写真が廊下に掲示され、家族の安心と信頼にも繋がっている。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	廊下の壁に掲示し職員間で意識し共有し実践につなげている。	日常や朝礼時に視界に入りやすい場所に理念を掲示し、ミーティングでも確認して実践に繋がっている。地域との関わりはコロナ禍でできていないが、利用者の思いを傾聴し、ゆとりを持って支援している。家庭的な雰囲気を大切に、食事や就寝時間等も一人ひとりの思いに合わせた支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染防止の為、外出はしておりません。地元のボランティアの方々に参加して頂き消防訓練を毎年行っている。毎月、地域のお店の訪問販売があり買い物を楽しまれている。その他地域の理髪店の方が交代で散髪を行ってくれている	コロナ禍で地域に出かけて交流することはできないが、毎月3~4回、地域のお店がお菓子や生活用品、介護グッズなどの訪問販売に落とずれ、欲しいものを自身で購入することができる。自分でお金を管理している方もいる。近所の方がタケノコのお裾分けやゴーヤの苗を届けてくれ、利用者と一緒に植えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置適用以外の時期にオレンジカフェやク(区)でカフェを開催している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的開催し利用状況等の報告を地域包括支援センターや行政・区長・民生委員にも参加して頂き意見交換を行っている。	新型コロナウイルス感染拡大のピーク時は文書で開催したが、現在は区長、民生委員、家族、包括職員などが出席の元、活動報告や利用者状況、利用状況などを報告し意見交換をしている。議事録を玄関周辺に掲示し、誰でも閲覧することができる。職員には回覧で共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や運営推進会議に参加して情報発信と共に情報収集や意見交換を行っている。	市職員が運営推進会議へ出席する他、介護保険認定申請に出向いたり、不明なことを問い合わせるなど、良好な関係が構築できている。土砂災害区域の為、対策も相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム玄関エントランスに身体拘束をしないケアの指針を掲示し職員が共通理解する事で身体拘束ケアに取り組んでいる。	法人内で毎月委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、拘束を必要とする利用者はいない。理解度テストを用いて意識付けを図り、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括センターと定期的に交流を図り情報交換する事により職員相互で注意を払い対応している。また事業所内で高齢者虐待防止関連法についての勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護委員会に管理者がZOOMにて参加し、後日事業所毎に勉強会を開催し権利擁護及び虐待・身体拘束に関する継続的な教育機会を設け普段から全体で「適切、不適切」を意識できる体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に一つ一つ項目に対して分かりやすい言葉で説明し理解して頂いている。改定等の際は、案内文を郵送すると共に電話で説明しご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また定期的アンケートを実施し家族等の意見、要望の確認改善する機会を設け結果をグループホーム玄関エントランスに掲示している。	オンライン面会の他、窓越しや中庭で短時間の面会を支援している。毎年、無記名の家族のアンケートを実施し、本人による買い物や、コロナ禍でもできる事は続けてほしい等の意見があった。対応等については『美和通信』に掲載して周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回の面談や月1回のカンファレンス、併設のデイサービスとの全体ミーティングに於いて意見や提案を聞く機会を設けている。	ミーティングは事前に議題を提示する為、欠席者も意見を出すことができる。利用者の様子などを活発に報告・議論し、情報を共有している。チャレンジカードを活用した面談等を行い、具体的な指導をしていたが、今年度から同一労働同一賃金に則った制度が変わった。職員からは意見が言いやすく、金額にもよるが、物品等の購入希望も対応が早く、働きやすい職場であるとの話が聞けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジカード【目標管理カード】の記入提出と評価を年2回行っている。またそれぞれに面接も行い詳細の把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員から年度別に研修計画を立てており全体的な研修も教育委員会が計画実施している。参加できなかった職員には資料等を配布し各自が勉強できるように対応している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に参加して情報交換や交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間を取り安心して話ができるよう声掛け傾聴している、家族にも聞き取りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	知識や経験豊富な職員が対応する事での確かなアドバイスや情報交換を行い信頼関係を築きながら理解を得られるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のADL状態や家族構成等も含め必要最適なサービスの検討や系列事業所等に相談し本人家族も交えて検討		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見極め、寄り添い、共に支え合う関係と気持ちよく過ごしていただけるよう声掛けしながら見守りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染防止の為、面会制限があり直接お話をすることが出来ないがオンライン面会を開設し対応させていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止の為、外出はしておりませんが、オンライン面会で家族とお話している。自宅で使い慣れた物や大切にされていた物を持って来て頂いている。	100歳のお祝いや、母の日などのプレゼントが届いた時には、電話で直接お礼を言えるような支援をしている。地域の訪問理美容を利用している。ホームで購読する新聞に毎日目を通す利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に耳を傾け楽しく会話している時は見守り、陰悪になりそうな時には仲たがいないように声掛け支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後、本人様の移動先の施設の相談や支援に努めている。必要に応じ、Crepo内での情報の共有も可能になっている。ご家族様の様子等、関係機関との情報共有に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なカンファレンスを行い職員其々が収集した情報を共有し検討の場を設けている	職員は利用者の声をよく聴いており「今日入浴したい」や「麺類が食べたい」「お鍋が食べたい」などの訴えを食事委員会に相談して献立に取り入れるなど、意向に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネージャーと連携を取りながら家族や本人からの情報収集に努めカンファレンスや申し送りにて情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	Crepo入力管理により関わりの少なかった方でも情報の共有が出来現状把握が出来ているまた、毎朝の申し送りにより詳細な情報の共有が出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにより情報の共有と把握を行い関係者の意見も頂き介護計画を作成している。変化があった時にはその都度見直しを行っている	ケアマネがアセスメントを行い、カンファレンスで話し合っってプランの作成・評価を行っている。日々の記録は各職員分ある端末で入力し、その時の様子や言葉などが細かく記載されている。家族には、衣類持参などで訪れた時に説明し、遠方の家族には郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はCrepo入力によりその都度詳細に入力している為情報の共有が出来ており定期的カンファレンスにより見直しもできる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応えるべく聞き取りを行い希望に添えるよう話し合いを行っている系列グループの大きさのメリットを生かした対応を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花いっぱい運動に参加し施設の周りの花壇にマリーゴールドを植え育てたり、ご近所さんから頂いたゴーヤやパンジー苗を植え育てている。夏から秋に行われるクリーン作戦に参加し綺麗になった道路沿いに満足されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診はもちろん受けているが歯科受診等も希望をお聞きし家族と相談受診している	法人内の病院から月2回の訪問診療を受け、変化があった時には家族に電話連絡し、業務日誌に記録している。緊急時や、歯科医受診などは職員が付き添い、家族が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の変化や出来事を管理者に報告し必要であれば看護師にも相談報告している往診時の担当看護師には業務用携帯を利用し相談報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必ず職員が付き添っている。入院中はMSWと連携を図り情報交換を行っている。月2回の訪問診療で医師に報告、相談を行っている。また普段から訪問看護師へご利用者様の状態を報告相談し情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事前相談聞き取りを行っている。体調の変化やADLの低下に伴いその都度相談や話し合いの機会を設けている、また、各部署の相談員や地域包括及び行政にも相談する事も行っている	重度化した場合に関する指針を作成し、契約時に家族に説明している。看取りは一人夜勤体制であることから実施しておらず、家族からの希望もない。重度化した時には医師から家族に説明し、方針を決定する。病院や系列の特養を紹介するなど、利用者や家族の不安の軽減を図っている。	現在、看取りの希望はないとのことだが、利用者の急変も考慮し、利用者個人の予測される変化等について、デイの看護師や医師から説明を聞くような研修の機会を設け、職員の不安軽減に繋げて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の勉強会実施及びマニュアルに沿って対応できている。緊急連絡網も活用し定期的に訓練実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年大雨洪水警報が出された際にも入居者が安心して休むことが出来るよう近くの避難場所ではなく系列の事業所に安全かつ迅速に避難する事が出来た	大雨時はレベル2で避難準備、レベル3で避難することとし、昨年も実際に避難した。その時に時間の関係で食事のトラブルがあり、非常食を持参することをマニュアルに追加した。災害別マニュアルを作成し、職員に確認を促している。市の一斉訓練に参加し、福祉避難所も確認しているが、系列の特養への非難が一番安全と考えている。避難訓練には民生委員や福祉ボランティアが参加し、見守りをしてくれる。訓練後は消防からの総評を踏まえて、話し合いをする。夜勤は一人体制なので、非常時には早めに連絡することを心がけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し言葉遣いに注意し各個人個人に合わせた対応をしている(方言や訛り等も含む)	声のトーンを下げ、目線の高さを利用者に合わせてるようにし、相手の立場になって考えるなどのアドバイスを必要に応じて行う。写真の掲載については、契約時に同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や入居者同士の会話の中から聞き出す事が出来るよう努めている。声掛けもやっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝は本人任せにしている、介助が必要な方には必ず声掛けしている。食事等は決まった時間に提供しているが個人の希望に合わせてずらす事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	周辺にある理容施設の協力により定期的に希望による散髪が出来るようになってきた。衣類等は家族にも協力して頂き好みに合った洋服等の購入に協力して頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的な嗜好調査を実施しておりイベント等を活用し食事に変化を付ける事が出来ている自分で作ることの喜びや一緒に片づけを行っていただく事で充実感を味わって頂いている	年1回アンケートを実施。食べたい物や好みの固さなどを聞き、食事委員会に報告している。昼は厨房で作り、朝夕はホームで作っている。麺類やパン食の希望があるが、パンは詰まる事が心配で提供できていない。100歳の方をお赤飯でお祝いし、本人も完食できた。希望があったお鍋にした時は非常に盛り上がった。チョコムースなどのおやつ作りを楽しむ。片づけは利用者も一緒に行く。コロナ禍で、職員は、見守りしながら別のテーブルで食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の定期的訪問やCrepo管理による共通認識で栄養管理は出来ているまた、体重の増減や定期的な健康診断により確実な情報共有と指示受けが出来ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師や歯科衛生士の定期的な訪問ありその都度最適な方法や手段を指導助言を頂き歯間ブラシやうがい薬なども活用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンや形態に見合ったものを使用しカンファレンスや申し送りを通じて同一の提供が出来るように対応している	排泄パターンに沿った声かけをしてトイレでの排泄を支援しており、おむつを使用している方はいない。夜間、ポータブルトイレを使用する場合にはセンサーを付け、安全に利用できるよう職員が付き添っている。トイレの棚にはパット類が個人毎のケースに入って並んでいた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にあった水分量を把握し疾病等も視野に入れた飲物を選択しそれぞれに提供しているまた、腹部マッサージや肛門周囲のマッサージ等も行い快適な排便が出来るよう働きかけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	其々の曜日日程を決めているがその都度体調やタイミング、希望を取り入れ柔軟な対応が出来るように努めている	日曜日以外は入浴支援を実施。週2~3回の入浴を基本としているが、希望があればいつでも入浴できる。香りの良いヒノキ風呂は、左右どちらからでも入れるように設置されている。タオルやリネン類は個人ごとに交換し、法人内の業者からレンタルしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒い時期には全員ボアシートを使用している手足の冷感がある方には湯たんぽを用意したり電気毛布等の準備を行い就寝時には温かく休むことが出来るよう夕方には整えている。日中眠気を模様しているような時には声掛けベットに誘導している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による定期的訪問あり、その際に丁寧な説明を受けており不明な点は24時間電話対応もして頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染防止の為、外出行事は出来なくなっているが室内で出来るイベントを工夫して行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止の為、外出できない毎日が続いている。そのため少しでも気分転換になればとの思いで施設の周りを散歩している	コロナ感染防止を図り、ホームの周りを散歩し、外気に触れる機会を作っている。現在はホーム内でのイベントを充実させている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	デイサービスで定期的に行っている訪問販売等と一緒に参加している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている利用者もあり、自由に使用している。ライン電話で話す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備と接触部分の消毒を毎日行っており感染対策も実施している、必ず室温と湿度を確認記録して室内空間を整えている	広々としたホールではゆったりと寛ぐことができ、廊下にもソファが置かれ、外を眺めたり、休むことができる。廊下には、梅ジュース作りやたこ焼き作りなど、日常の写真が掲示され、ホームでの生活を楽しんでいる姿を見ることができる。洗濯物をたたんだり、折り紙やパズルを楽しむなど、思い思いに時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士がゆっくり寛げるよう、ソファやテレビを配置している。また外を眺めゆっくりと独りの空間を過ごせる様に廊下角々に椅子と観葉植物を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や好みの物、写真等を持って来て頂いている。また、家族に自宅での生活の様子を聞いて本人が心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	居室には洗面台があり、毎日、眉を描き整える利用者がある。備品のチェストの他、ソファや椅子を置いたり、写真、人形、ぬいぐるみなど好みの物が飾られている。位牌を置いている方がいる。鉢植えの花も飾られていた。本人の希望を聞きながら模様替えを手伝うことがある。畳の部屋は2室、一人の利用者は自分で布団の上げ下ろしを続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所の表示を工夫している。 また利用者様の情報を職員間で共有し自立した生活が安全に送れるよう工夫している。		